

第1回 今治市都市再生協議会

令和8年8月25日(火) 13：30～

1. 前年度協議会の振り返り

2. 広小路（今治港線）の再整備と社会実験の検討について

- 事業概要（背景・位置づけ・ロードマップ等）
- 再整備で目指す将来像と計画案
- 社会実験の実施概要案
- 市民への情報周知に向けた取組

3. 意見交換①

4. 中心市街地における関連する検討・取組について

- シビックゾーンでの公共施設整備
- 中心市街地全体での都市基盤整備

5. 意見交換②

6. 今後のスケジュール

1. 前年度協議会の振り返り

- 2つの会議体の設置（昨年8月19日に実施した都市再生協議会にて承認済）
 - 「**今治市都市再生協議会**」：都市再生整備計画の作成と検証
 - 「**専門部会**」：個別事業及び社会実験の検討

本日の会議体

今治市都市再生協議会

- 都市再生整備計画の作成及び変更
 - 都市再生整備計画関連事業の実施及び効果検証（R8以降）
 - 中心市街地まちづくり（公共空間デザイン）の検討【総合的審議】
- 《構成》学識経験者、関係団体（経済・商店街等）、まちづくり関係者、関係行政機関、市

都市再生整備計画の
作成と検証

報告 ↑ ↓ 付託

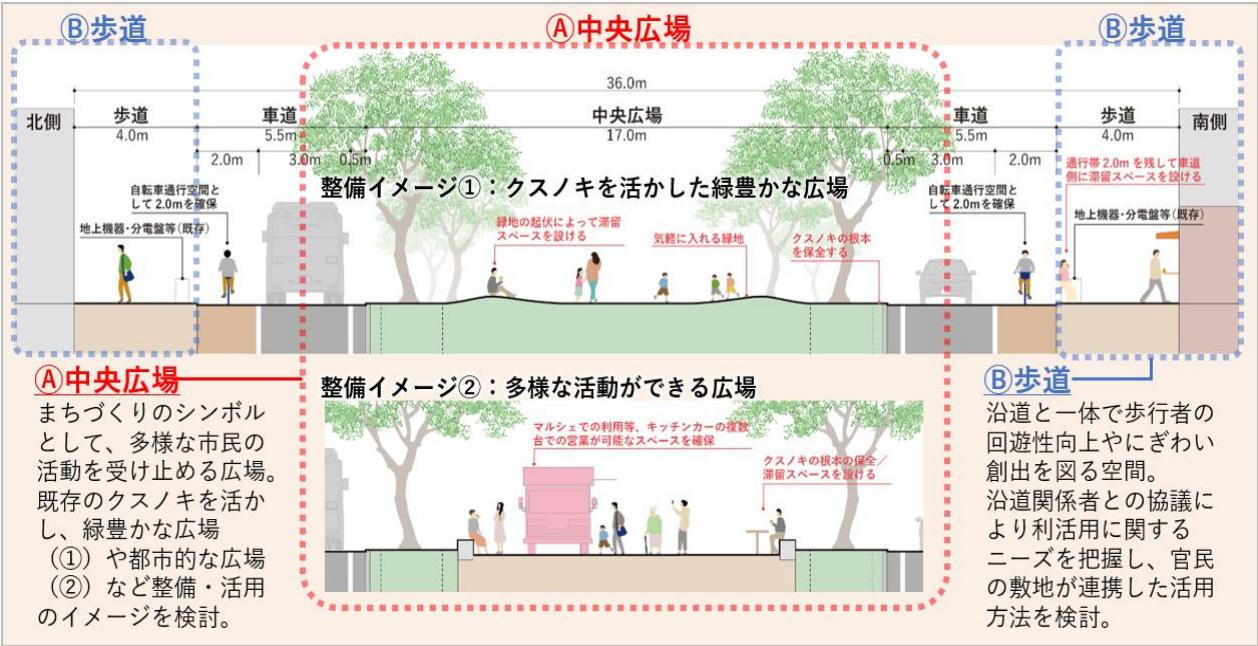
専門部会（協議会の下部機関）

- 中心市街地の公共空間再編整備の事業化検討
 - 上記に関連する社会実験の検討・実施
 - 中心市街地の公共空間デザインに関する検討【実質協議】
- 《構成》公共交通事業者、学識経験者、関係団体（商店街）、まちづくり関係者、関係行政機関、市

個別事業及び社会実験の検討

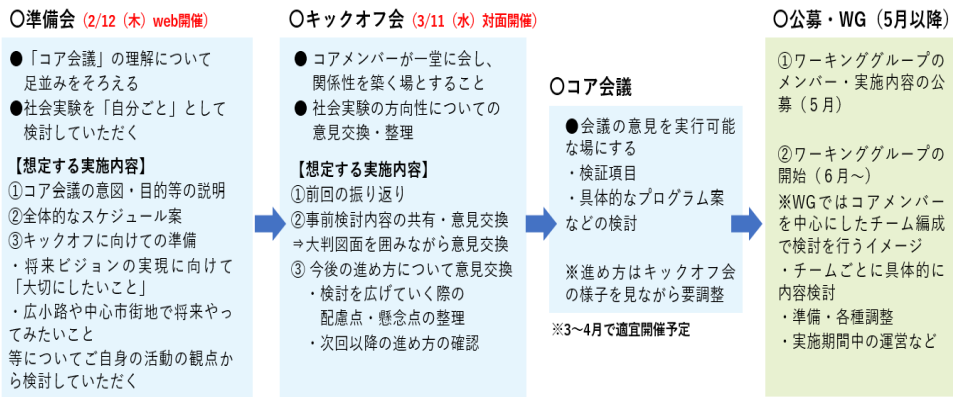
主な議題②：広小路（今治港線）の再整備と社会実験の検討について

- まちづくりにおける広小路の位置づけや公共空間デザインの検討案を提示
- 社会実験の企画検討案やコア会議の実施イメージを提示
- 関係者協議の進捗状況を共有



広小路再整備案の検討イメージ（昨年度）

■ コア会議の実施イメージ

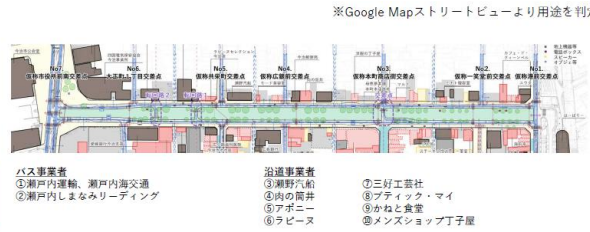


社会実験の検討を担うコア会議のイメージ（昨年度）

■ 個別ヒアリングの実施

- ・バス事業者、沿道事業者と現在の空間整備・社会実験の検討内容を共有しながら、利用に関わるニーズや今後の検討に向けた課題整理を図る

2月5～6日より協議を開始
(今後も協議を継続する予定)

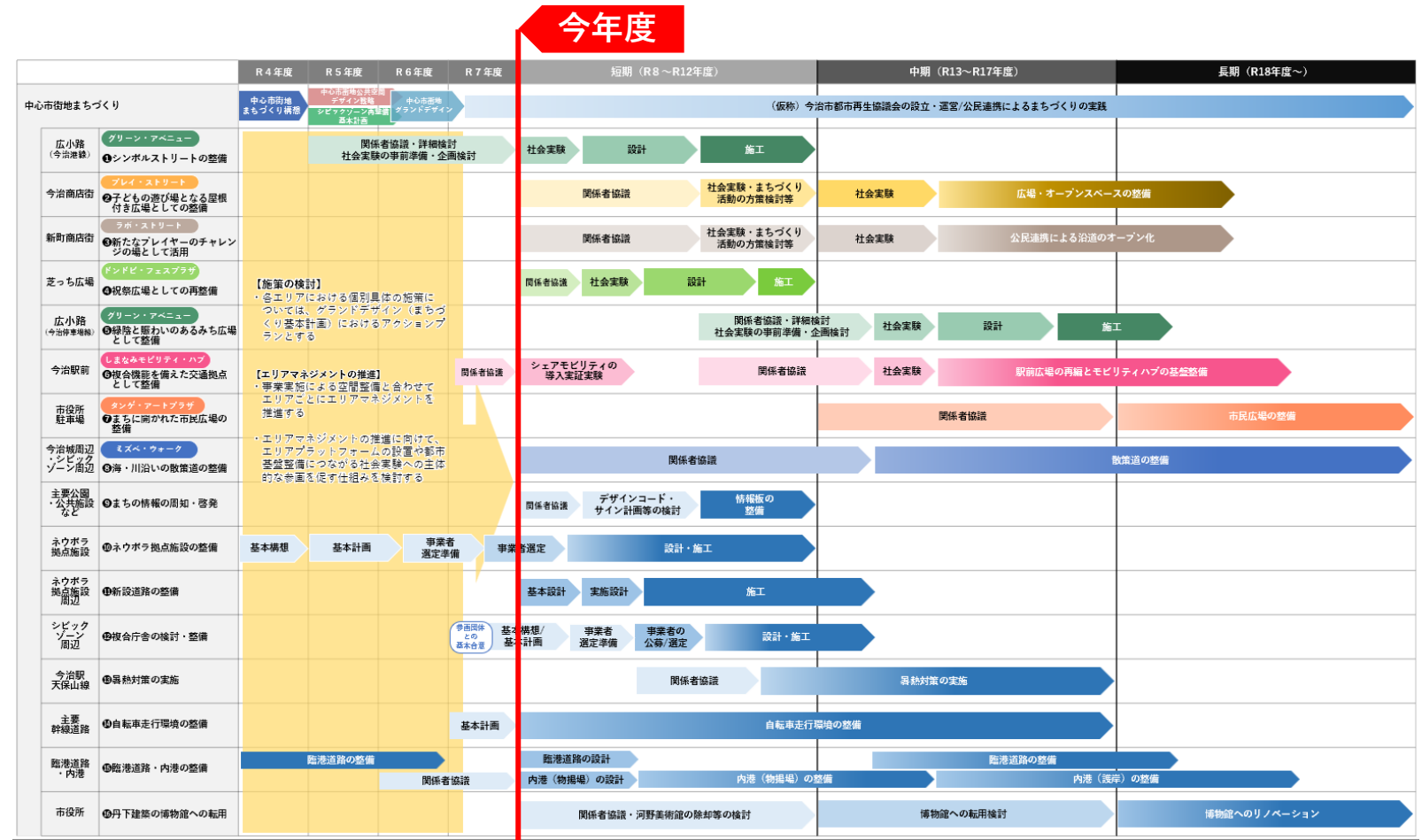


関係者協議の実施状況（昨年度）

ロードマップからみた今年度の位置づけ

8

- 都市再生整備計画（第1期）に基づく事業実施の初年度
- 先行プロジェクトとして県・市協働で進められている広小路（今治港線）の再整備について、次年度以降の設計検討へスムーズにつなげるため、社会実験等を通じた効果検証と合意形成、事業スケジュールを見据えた適切な計画・設計を連動して着実に進めることが求められる
- その他、中心市街地における公共施設・公共空間整備に向けた計画・設計を連携させ、今治市中心市街地まちづくりの推進を図ることも求められる



- 主な議題①：広小路（今治港線）の再整備と社会実験の検討について
- 主な議題②：中心市街地における関連する検討・取組について

2. 広小路（今治港線）の再整備と社会実験の検討について

【まちづくり検討段階（2022～2025）】

地域との対話



将来像の検討



道路空間の比較検討
（歩道拡幅案・中央広場案等）



中央広場案が高評価



グランドデザインへ位置付け



【事業化段階（2026～）】

再整備方針（案）の検討



交通シミュレーション＋社会実験



検証・関係機関協議



再整備方針決定



概略設計



設計・整備

まちづくり検討段階では「目指す姿」を整理しました。

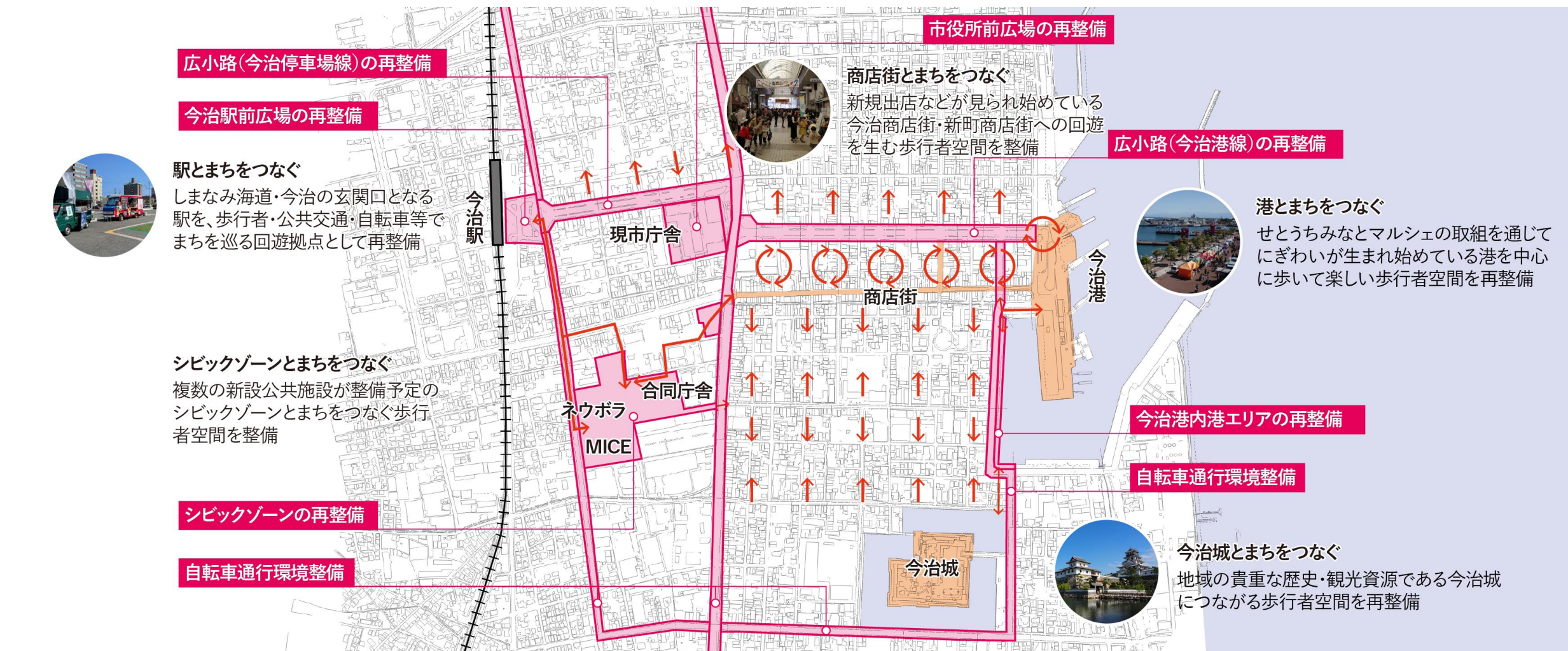
今年度以降の事業化段階では関係者協議、社会実験等を通して再整備方針等を決定します。

【背景・位置づけ】

- 令和7年に『今治市中心市街地グランドデザイン』を策定
- 中心市街地に集まる様々な魅力・資源をヒト中心の空間でつなぎ、回遊の生まれるまちづくりの将来ビジョンを掲げる
- 将来ビジョンの実現に向けて、段階的な事業実施イメージを示すロードマップと官民連携に向けた基盤整備が示されている
- 県道である広小路（今治港線）は先行整備事業に位置付けられ、愛媛県・今治市が連携して再整備事業を進めている



将来ビジョンの実現に向けた基盤整備とエリアマネジメントの連携を図る



港を中心に、商店街や今治城、駅、シビックゾーンらをつなぐ基盤を整備し
エリアマネジメントと連携しながら中心市街地全体の回遊性・にぎわいの創出を目指す

【背景・位置づけ】

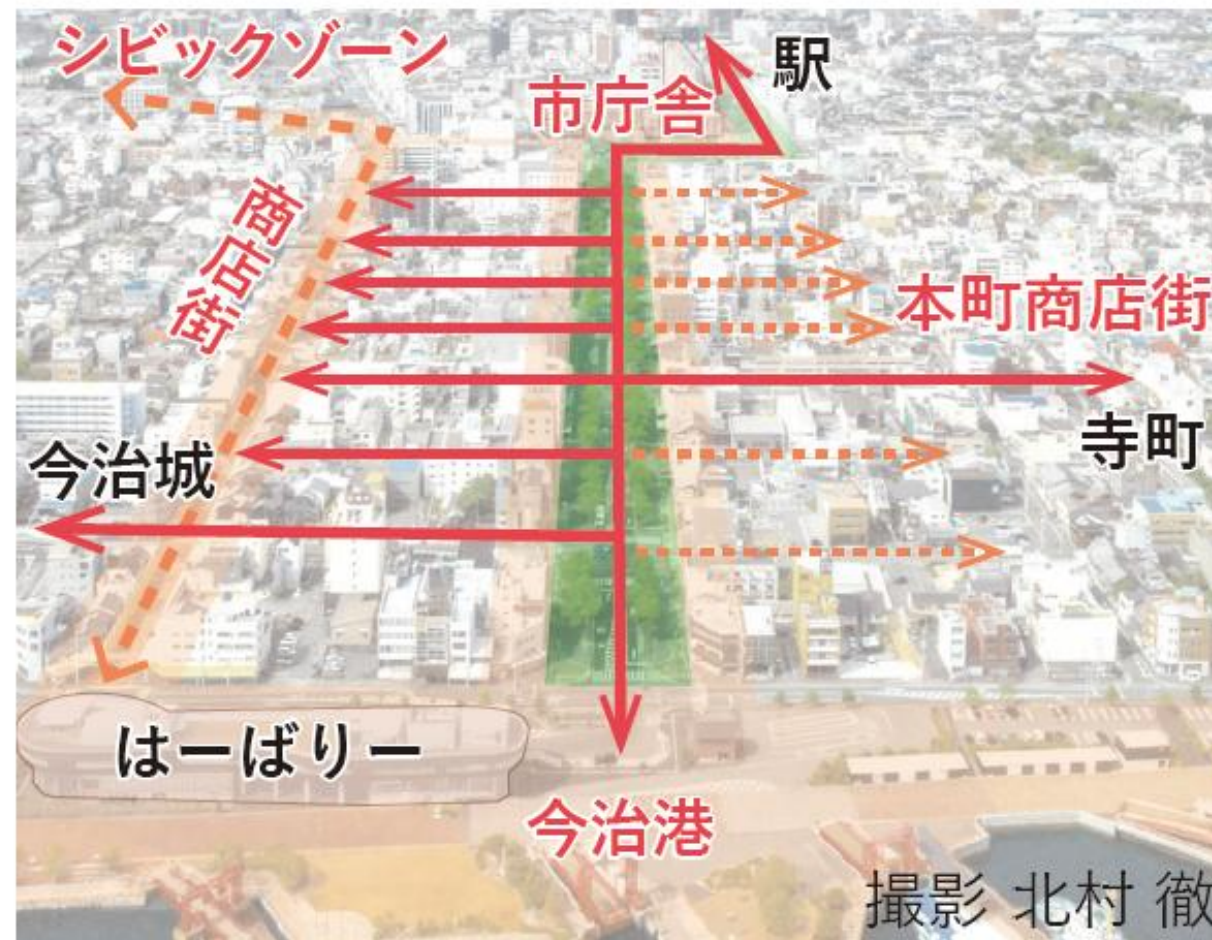
- 港- 市庁舎- 駅をつなぐまちのシンボルストリート
- 近年は『せとうちみなとマルシェ』や商店街での新規出店など、まちのにぎわい創出につながる新たな取組がみられている
- 一方、現在は市民の訪れる目的地となる場所が点在し、それらを結ぶ回遊にはつながっていない



みなとマルシェ



商店街での新規出店



広小路（今治港線）は港や商店街等でスポット的に生まれているにぎわいを
まち全体に広げていくパイプとして重要な役割を担う

成り立ち

- ・ 戦災復興計画で拡幅された幅員約36mの県道
- ・ 道路景観を特徴づけるクスノキ並木は市民の寄附により植樹された



現在

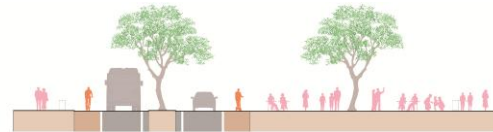
- ・ 港の定期旅客航路の廃止等に伴う車両交通量の減少
- ・ 郊外化等に伴う沿道店舗の減少

今後の中心市街地まちづくりに向けた広小路の在り方を検討

まちづくり 検討段階 (2022~2025)



両側歩道拡幅案



南側歩道拡幅案



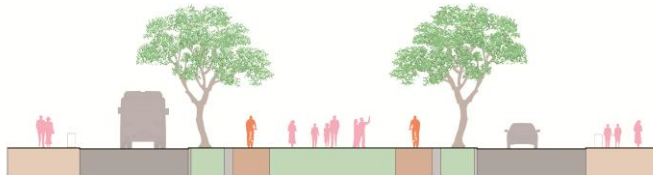
北側歩道拡幅案



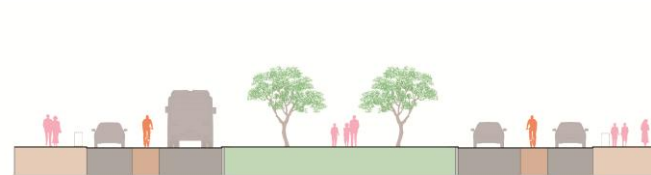
中央広場案

ランドデザイン策定に向けて実施された協議会での議論などで中央広場案が高く評価▲

事業化検討 段階 (2026~)



【A】 中央に自転車レーンを取り
車道を広く取る場合



【B】 車道左側を自転車レーン、
荷捌きレーンをとる場合



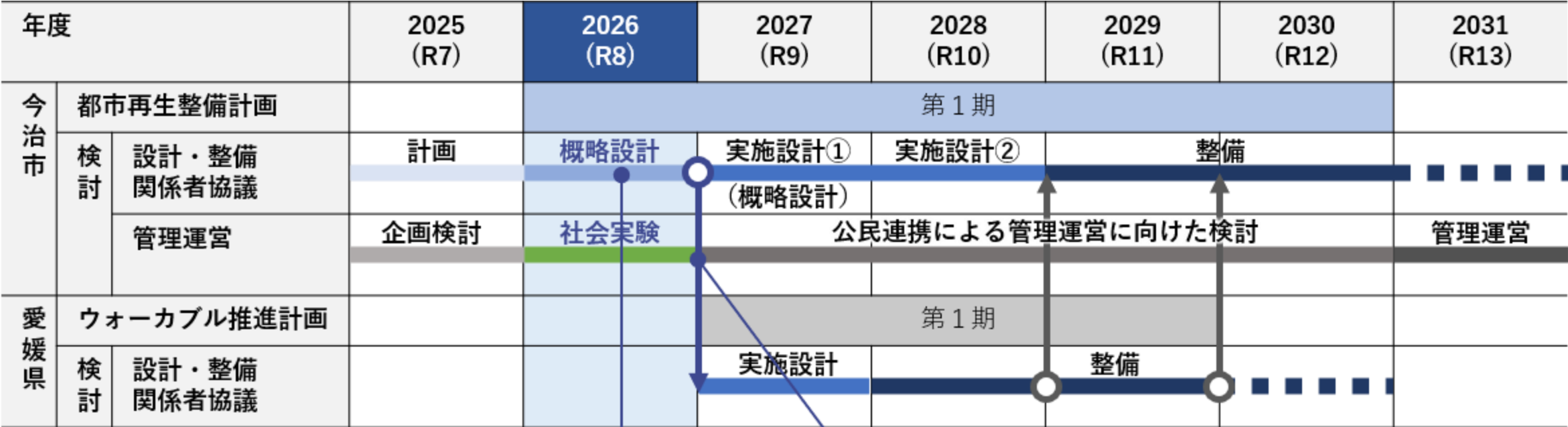
【C】 車道左側を自転車レーンとし
要所に荷捌き停車帯をとる場合

現況の道路構造を変えずに実験可能で交通流の変化を検証可能な【C】で社会実験を実施▲

※社会実験後に幅員構成も含めた再整備方針案を検討

再整備に至るロードマップ（案）

※現時点での想定であり、継続して関係者と協議調整を行う



ゴール①：広小路（今治港線）再整備方針の合意形成

ゴール②：概略設計（案）とりまとめ

※昨年度の専門部会・協議会の内容を基に作成



広小路整備に向けて本年度目指すゴール

ゴール①：広小路（今治港線）再整備方針の合意形成

社会実験を契機に、多様な関係主体と再整備方針の合意形成を進める

ゴール②：概略設計（案）とりまとめ

令和9年度以降の道路の実施設計にスムーズにつながるよう、道路管理者及び交通管理者と設計条件・整備方針に関する合意形成を進め、概略設計（案）としてとりまとめる

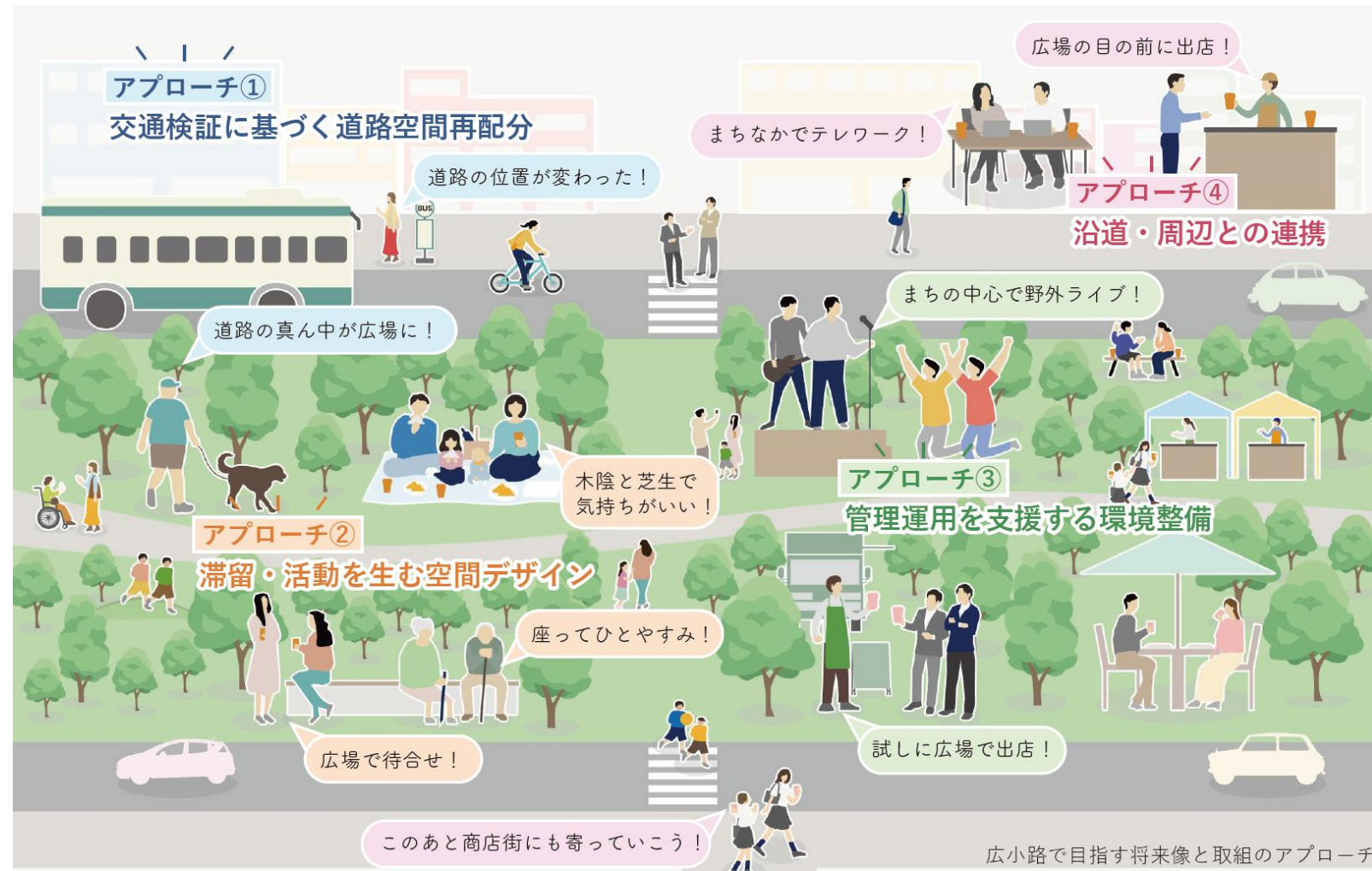
日常的にまちを訪れ、 回遊を生むきっかけをつくる 活動・滞留のための『みち広場』

「みち広場」とは

- 車の移動のためだけの「道路」からまちを訪れるきっかけとなるような活動・滞留のできる「みち広場」に

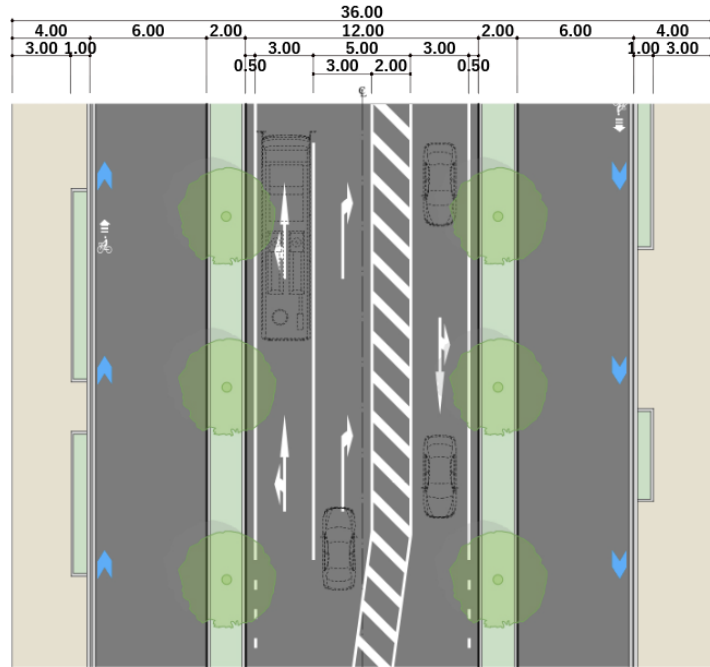
将来像の実現に向けた取組

- ①交通検証に基づく道路空間再配分により、歩行者空間を創出
- ②日常的に多世代が訪れたくなる滞留・活動スペースの形成
- ③多主体による活用を促す環境整備
- ④沿道・周辺での取組支援と連携強化

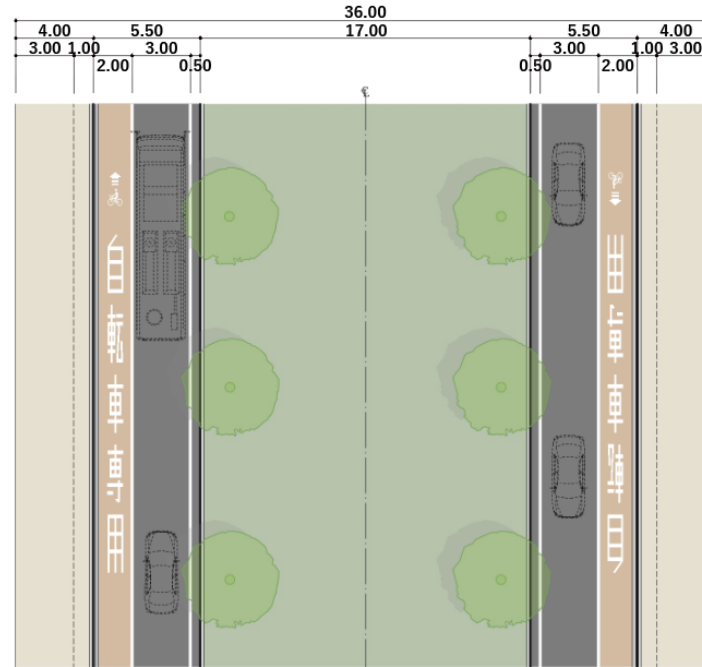


目指す将来像を実現する上で、道路空間再配分のみでなく
整備・活用・管理など多方面のアプローチを緊密に連携させていくことが必要不可欠

現況



前年度のまちづくり検討案

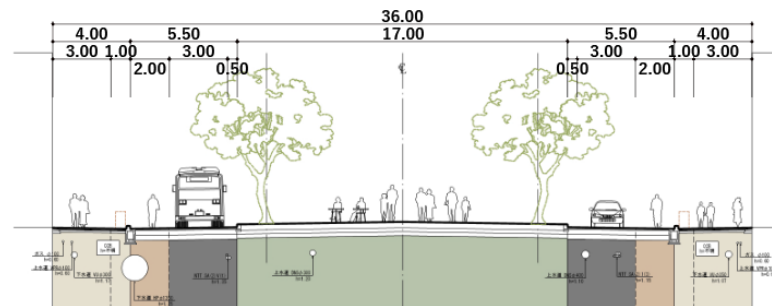
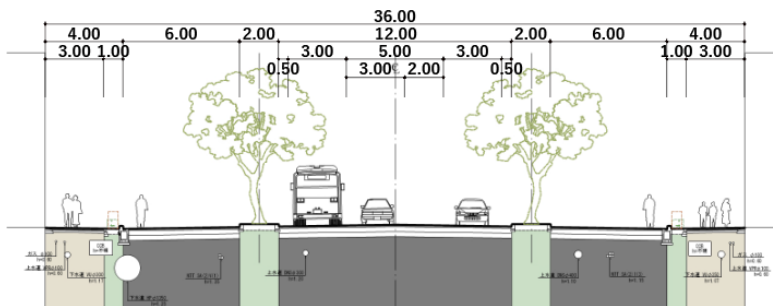


関係者協議等での主なご意見

- 荷捌き車や緊急車両等による駐停車が生じた場合の逃げ場がないため、交通の円滑性を確保できないのではないか。
- 現在の側道側ではクスノキの枝が伸びており、バスなど大型車の走行に支障が出る恐れがある。



事業化検討にあたって
交通円滑性・安全性の観点から
整備計画案を再検討





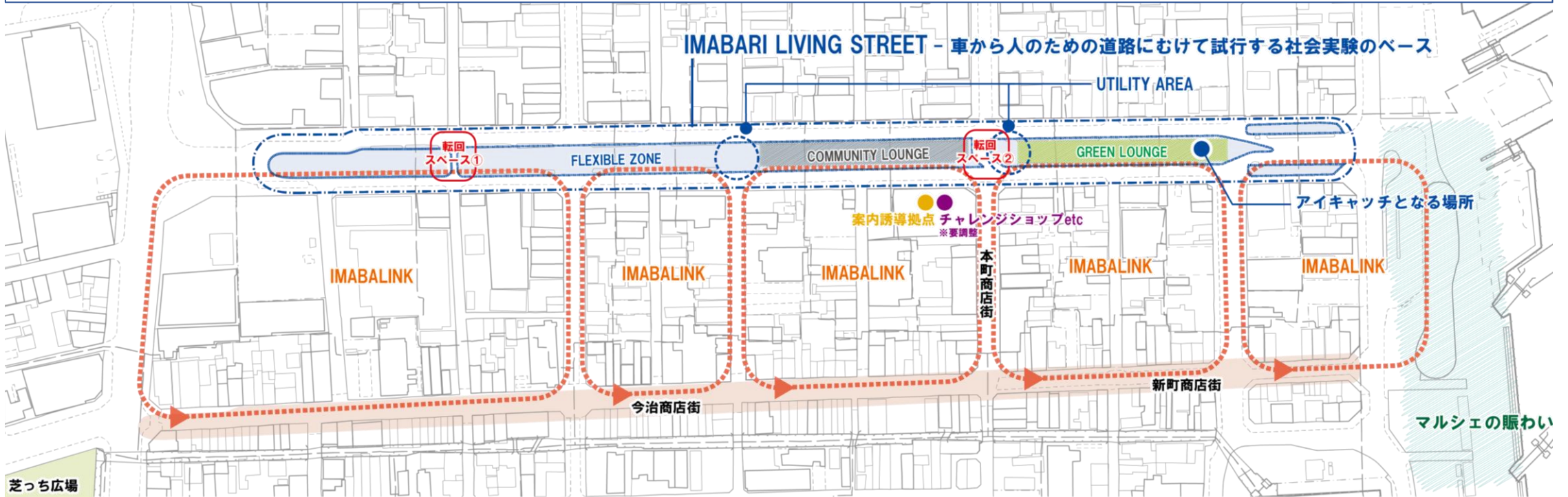
滞留・活動の場となるみち広場のイメージ

整備計画案による効果・課題等を把握し、改善策を検討するための社会実験を実施予定

■社会実験の概要（昨年度時点）

- ・【実験対象】 広小路周辺（商店街や港との連携した取組を検討することで回遊性の向上を図る）
- ・【実験期間（仮）】 11月9日（月）～22日（日）（うち、1日は「せとうちみなとマルシェ」実施日）

実験のテーマ（案）： 広小路・商店街・みなとが一体となって実施する社会実験『（仮称）IMABALINK』



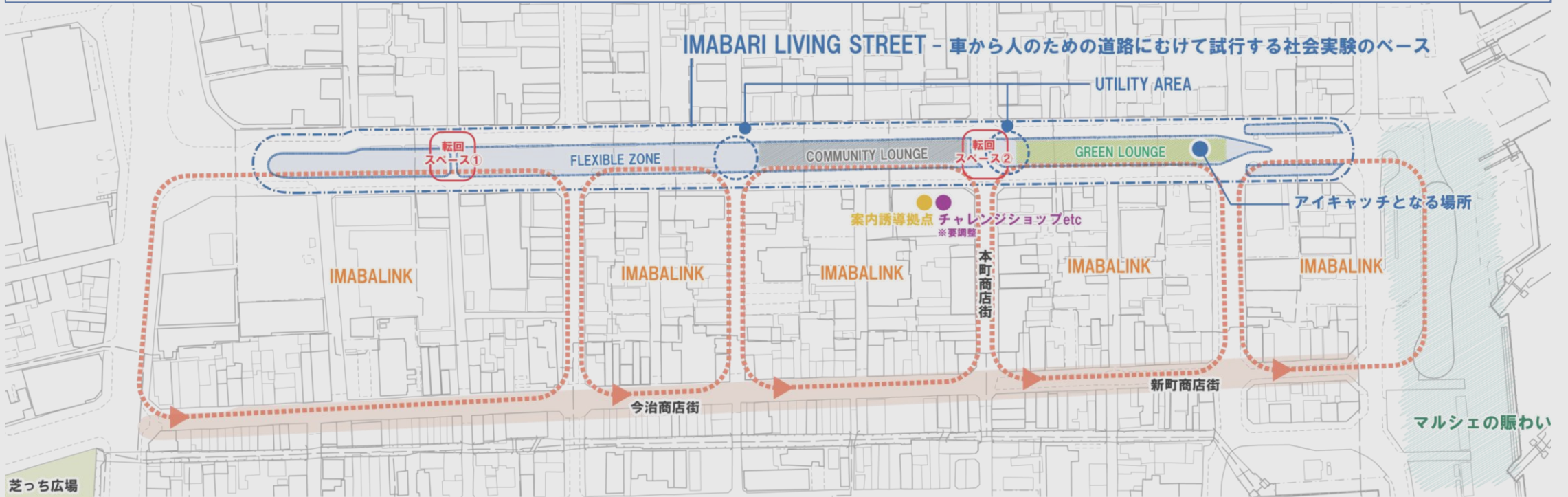
社会実験の全体像や実施テーマ等を事務局で仮案を作成→こちらをベースに議論

■社会実験の概要（現時点）

- ・【実験対象】 広小路周辺（商店街や港との連携した取組を検討することで回遊性の向上を図る）
- ・【実験期間（仮）】 11月9日（月）～22日（日）（うち、1日は「せとうちみなとマルシェ」実施日）

➡ 大きな変更なし

実験のテーマ（案）： 広小路・商店街・みなとが一体となって実施する社会実験『（仮称）IMABALINK』



➡ 関係機関・事業者や地域の方々（コアメンバー）と意見交換を行いながら、実験時の検証テーマや実施内容は大きく更新しており、現在も11月の社会実験実施に向けて検討を重ねている

- 社会実験は、**一過性のイベントではなく将来像の実現に向けた取組のアプローチを、実際の現場で試行すること**を目指し、4つのテーマから検証を実施

(将来像) 日常的にまちを訪れ、回遊を生むきっかけをつくる活動・滞留のための『**みち広場**』

【将来像の実現に向けた取組のアプローチ】

【現況】



【将来イメージ】



アプローチ① 道路空間の再配分

「道路」を市民の集う「みち広場」へ変える



アプローチ② 日常を彩る空間デザイン

訪れたい「みち広場」へと充実させる



アプローチ③ 活用を促進する環境整備

「みち広場」を活用した取組を支援する



アプローチ④ 沿道・周辺との連携強化

「みち広場」をきっかけに沿道を活性化する

【社会実験の検証テーマ】

1 交通の検証

「中央広場案」のレイアウトを試行することで、交通に関わる課題を抽出し、改善策の検討につなげる

2 日常の検証

散策・滞留・遊びの空間を仮設的に整備し、様々な利用者に空間を体験してもらいながら、訪れたい空間デザインに向けた要点を抽出する

3 チャレンジの検証

「みち広場」となる広小路での活用の可能性を共有し、持続的な活用に必要なハード・ソフトの環境整備の要点を抽出する

4 沿道との連携の検証

沿道関係者が広小路で実現したいこと、空き店舗等を活用して地域のプレイヤーが将来実現したいことを試行し、さらなる活用に向けた機運を醸成する

【社会実験の検証テーマと検討体制】

1 交通の検証

「中央広場案」のレイアウトを試行することで、交通に関わる課題を抽出し、改善策の検討につなげる

➡ 警察や県、交通事業者など、主に関係機関・関係者等と検討（6/26, 7/21に県・警察との合同協議を実施、バス・タクシー事業者にもヒアリングを適宜実施）

2 日常の検証

散策・滞留・遊びの空間を仮設的に整備し、様々な利用者に空間を体験してもらいながら、訪れたい空間デザインに向けた要点を抽出する

3 チャレンジの検証

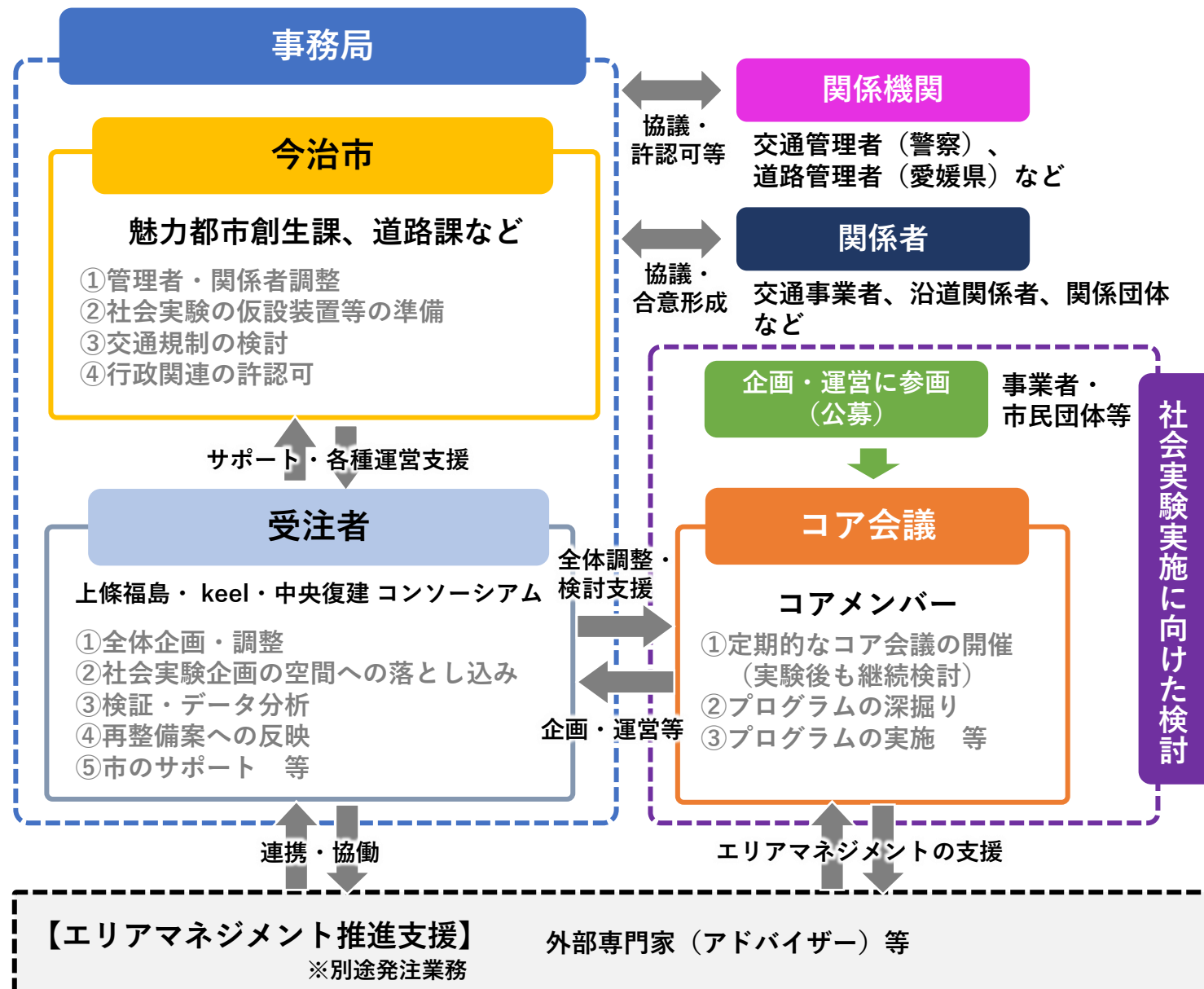
「みち広場」となる広小路での活用の可能性を共有し、持続的な活用に必要なハード・ソフトの環境整備の要点を抽出する

4 沿道との連携の検証

沿道関係者が広小路で実現したいこと、空き店舗等を活用して地域のプレイヤーが将来実現したいことを試行し、さらなる活用に向けた機運を醸成する

➡ コアメンバー、沿道関係者など、主に地域の方々と一緒に検討（コア会議）

社会実験の検討体制



- コア会議では、**社会実験における広小路の利活用の方向性及び検証項目**を設定するとともに、その検証を行うための**具体的な社会実験プログラム案**を検討している（エリアマネジメント推進支援業務と連携しながら、今後も継続的に開催）

【コア会議の実施内容】

準備会 ※オンライン開催

2/12（木）

キックオフ会（第1回コア会議）

3/11（水）

第2回コア会議

3/31（金）

※第2回～第3回の間は、
チームに分かれて個別検討

第3回コア会議

6/19（金）

第4回コア会議

7/16（木）

- コア会議の趣旨・位置づけについての共通理解
- 社会実験を「自分ごと」として捉えていただくための整理

- コアメンバーが一堂に会し、関係性を築く場とすること
- 社会実験の方向性についての意見交換・整理

- コアメンバーの思いや実現したいことを踏まえて、社会実験という機会を活かすための前提条件について整理
- 個別ヒアリング結果に基づく具体的なプログラム案、今後の進め方について意見交換

- 社会実験の実施内容（素案）の確認
- 公募等の市民参加の実施方針について
- 広報・VIの考え方について意見交換

- 中心市街地まちづくりの全体像の整理
- デザインチームによるPJ名称の検討結果
- 各実験コンテンツの検討状況の共有（公募・広報の実施方針含む）



準備会



キックオフ会（第1回コア会議）



第4回コア会議

1 交通の検証

車道境界に保安設備を設置し「中央広場案」のレイアウトを空間上に現出

検証内容

- (1) 中央広場案による交通円滑性・安全性に対する影響を調査し、改善案の検討に向けた課題を整理
- (2) 沿道関係者・交通事業者等による実験の影響・評価等を調査し、合意形成に向けた課題を整理

◎メインターゲット：市民・観光客等（運転者・歩行者）、交通事業者）



※交通規制の内容等は想定であり、関係機関等との協議の上、決定します

【検証項目（案）】

- A) 交通円滑性・安全性
 - 副道、交差点、迂回路で渋滞等が発生していないか混雑状況を検証
 - モデルケースで設置を検討した転回路が円滑かつ正常に機能しているか検証
 - 荷捌き車両等による交通阻害が発生していないか検証
 - 歩行者の安全性が確保されているか
- B) バス交通の円滑性・安全性
 - 定時運行ができていないか検証
 - 自転車とバス動線の交錯に問題が生じていないか検証
 - 荷捌き車両等による交通阻害が発生していないか検証
- C) 荷捌きスペースの配置・容量・安全性
 - 荷捌きスペースの集約化による横待ちで問題が生じていないか検証
 - 荷捌きバス数に不足がないか検証
 - 自転車と荷捌き動線の交錯に問題が生じていないか検証
- D) 沿道の営業への影響
 - 沿道店舗の営業に悪影響がないか

【評価手法（案）】

- ◆ 交通量調査
主要交差点における実験中の交通量調査（別途発注業務）結果と昨年度実施の調査結果の比較・分析より、実験中の交通流の変化による周辺への影響等を検証
【検証項目：A～C】
- ◆ 現場確認
周辺交通への影響や荷捌き、バス交通、タクシー交通等について、事前に確認すべき事項を整理した上で、現場で状況を調査・把握
【検証項目：A～D】
- ◆ 街頭アンケート調査
実験期間中の来訪者を対象に、来訪目的や過ごし方、満足度、今後の再整備に向けた意向等を調査・把握
【検証項目：A・D】
- ◆ 関係者へのヒアリング調査
実験終了後に、沿道関係者・交通事業者等に対して、実験による影響や事業効果、評価等を調査・把握
【検証項目B～D】

【検証結果のフィードバック方法（案）】

- ◆ 再整備計画への反映
道路空間再配分、交差点信号の運用、転回スペースや荷捌きスペースの必要性など
- ◆ 関係者への合意形成
警察、道路管理者、沿道関係者、交通事業者、市民など

2 日常の検証

滞留/散策/遊びの空間を仮設整備し、
中央広場の利用を促す空間デザインの
アイデアを試行

検証内容

- (1) 平日における滞留行動等を把握し、歩行回遊性に及ぼす影響を調査・分析
- (2) 実施期間中における仮設広場のリピート利用率を把握し、利用の習慣化につながる知見を整理
- (3) 仮設広場の歩行・利用環境に対する利用者の意見を把握し、空間デザインに向けた知見を整理

※実施イメージは想定であり、実施有無や実施場所は関係者等と協議の上、決定します

◎メインターゲット：市民（特に広小路の周辺の事業者・居住者、学生・子育て世帯・高齢者）



【検証項目（案）】

A) 日常の滞留発生状況

イベントのない平日昼間における滞留行動を調査し、飲食や散歩など自発的な滞留行動が生まれているか検証

B) 利用の習慣化とリピート率

リピーターの有無を調査し、広小路の仮設広場が生活動線や休憩場所として定着しているか検証

C) 歩行・利用環境の改善視点

仮設広場の歩行・利用環境に対する参加者の意見を調査し、歩きやすく利用しやすい空間デザインについて具体的に検証

【評価手法（案）】

◆ 定点観測調査

広小路の特定区間において、滞留人数を定期的に計測し、滞留量の変化を調査

【検証項目：A】

◆ アクティビティ活動調査

歩行量分布・歩行行動・滞留行動の各調査を通じて歩行者の行動・動態等を把握

【検証項目：A】

◆ 街頭アンケート調査

実験期間中の来訪者を対象に、来訪目的や過ごし方、満足度、今後の再整備に向けた意向等を調査・把握

【検証項目：B・C】

【検証結果のフィードバック方法（案）】

◆ 空間デザインの最適化

滞留の発生に寄与する設えの検討、回遊性向上を促すルート設定など

◆ 本整備に向けた関係者への合意形成

沿道関係者、市民など

3 チャレンジの検証

週末を中心に地域の多様な主体が
広小路を舞台に新たな企画に
挑戦できる実践の場を提供

検証内容

- (1) 実施したプログラムが市民・沿道関係者の道路空間活用に対する意識に及ぼす影響を調査・分析
- (2) プログラムに関わる主催者・参加者の意見を把握し、広小路の空間特性を生かしたプログラムの実現性・受容性や、必要なインフラ・設備に関する知見を整理

【検証項目（案）】

- A) 市民・沿道関係者の意識変化**
道路空間の変化を肯定的に捉え、継続的な活用を望む機運が醸成されているか検証
- B) 試行内容の実現性と受容性**
実施内容が広小路の空間特性を活かしつつ、持続可能な仕組みとなっているか検証
- C) 必要なインフラ・設備の検討**
多様な活動を支えるために不可欠な設備や、追加整備が必要な機能を検証

【評価手法（案）】

- ◆ **街頭アンケート調査**
実験期間中の来訪者を対象に、来訪目的や過ごし方、満足度、今後の再整備に向けた意向等を調査・把握
【検証項目：A・B】
- ◆ **関係者へのヒアリング調査**
実験終了後に、プログラム主催者・沿道関係者等に対して、実験による影響や空間の利便性、評価等を調査・把握
【検証項目A～C】

【検証結果のフィードバック方法（案）】

- ◆ **空間デザインの最適化**
利用実態を踏まえ、安全で快適な空間レイアウトを導き出す
- ◆ **管理・運営ルールの策定検討**
整備後の活用に向けた運用ルール等を検討する
- ◆ **エリアマネジメントの推進**
実験を通じた利活用ニーズの把握及び多様な主体の連携を通じてエリアマネジメントの機運醸成を図る

※実施イメージは想定であり、実施有無や実施場所は関係者等と協議の上、決定します

◎メインターゲット：市民、観光客等（イベント参加者）、地域プレイヤー（主催者）



4 沿道との連携の検証

沿道・周辺の既存ストックと空間利用
を連動させ、エリア一体となった
回遊性・にぎわいを創出

検証内容

- (1) 空き店舗活用に関わる所有者・来訪者等の意見を把握し、沿道・周辺の空き店舗活用に関する課題や将来的な活用可能性に関する知見を整理
- (2) 沿道の連携した取り組みがエリア全体の魅力に及ぼす影響を調査・分析

※実施イメージは想定であり、実施有無や実施場所は関係者等と協議の上、決定します

◎メインターゲット：沿道関係者、商店街関係者、市民、観光客等（イベント参加者）



【検証項目（案）】

- A) 空き店舗活用の課題把握
実際の活用におけるハード・ソフト両面の課題を抽出
- B) 将来的な活用可能性の把握
実験での試行内容が、将来的な継続利用や定着につながるか検証
- C) 活動連携による相乗効果
沿道の個別活動が繋がり、エリア全体の魅力向上にどう寄与したか検証

【評価手法（案）】

- ◆ 関係者へのヒアリング調査
実験終了後に、沿道関係者・物件オーナー等に対して、実験による影響や空間の利便性、評価等を調査・把握
【検証項目A～C】
- ◆ 街頭アンケート調査
実験期間中の来訪者を対象に、来訪目的や過ごし方、満足度、今後の再整備に向けた意向等を調査・把握
【検証項目：B・C】

【検証結果のフィードバック方法（案）】

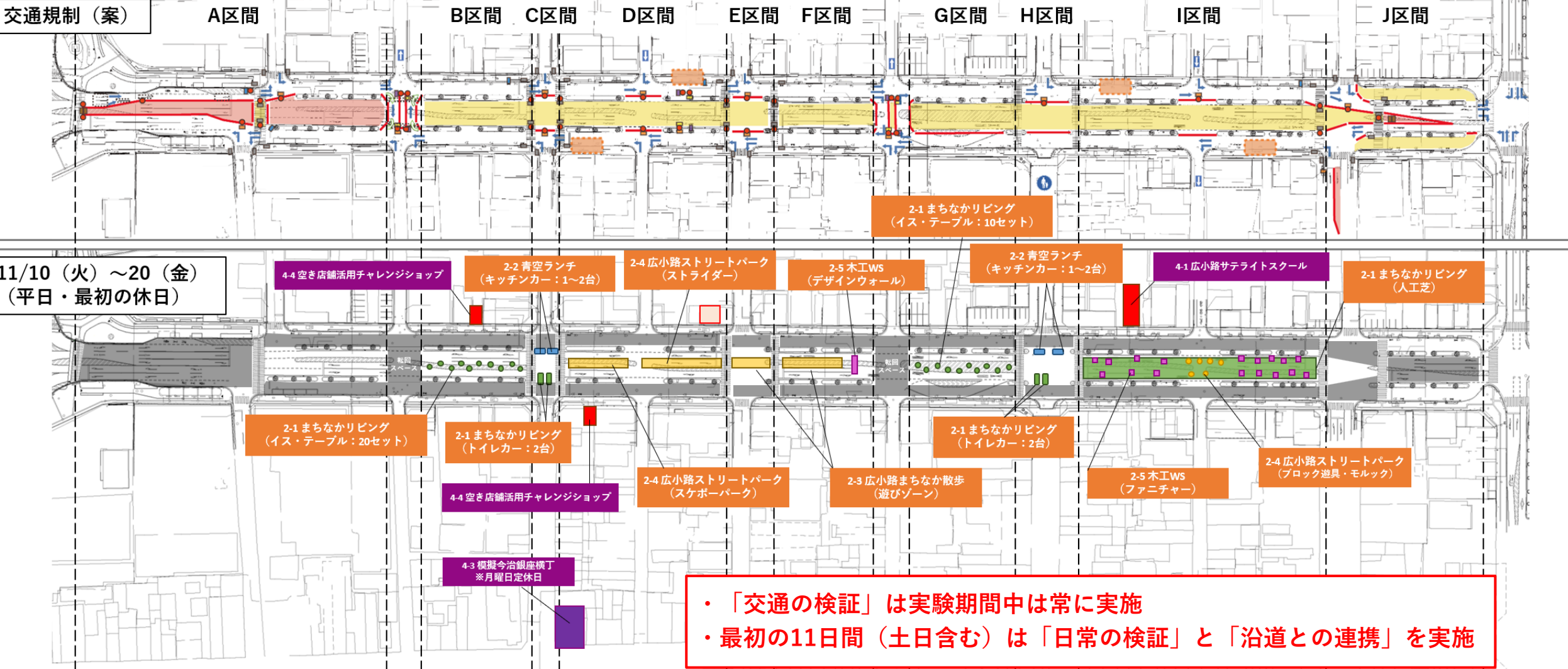
- ◆ 空き店舗活用サポート体制の検討
出店希望者と物件を繋ぎ、空き店舗の円滑な利活用を支援する仕組みを検討する
- ◆ 投資・出店意欲の意識醸成
エリアの将来像や魅力を発信し、民間事業者による投資や新規出店の機運を高める

社会実験の実施イメージ

※仮で配置した案であり、決定しているものではありません（今後、詳細に検討）

マルシェ
実施日

11/9 (月)	11/10 (火)	11/11 (水)	11/12 (木)	11/13 (金)	11/14 (土)	11/15 (日)	11/16 (月)	11/17 (火)	11/18 (水)	11/19 (木)	11/20 (金)	11/21 (土)	11/22 (日)
●設営													●撤収



社会実験の実施イメージ

※仮で配置した案であり、決定しているものではありません（今後、詳細に検討）

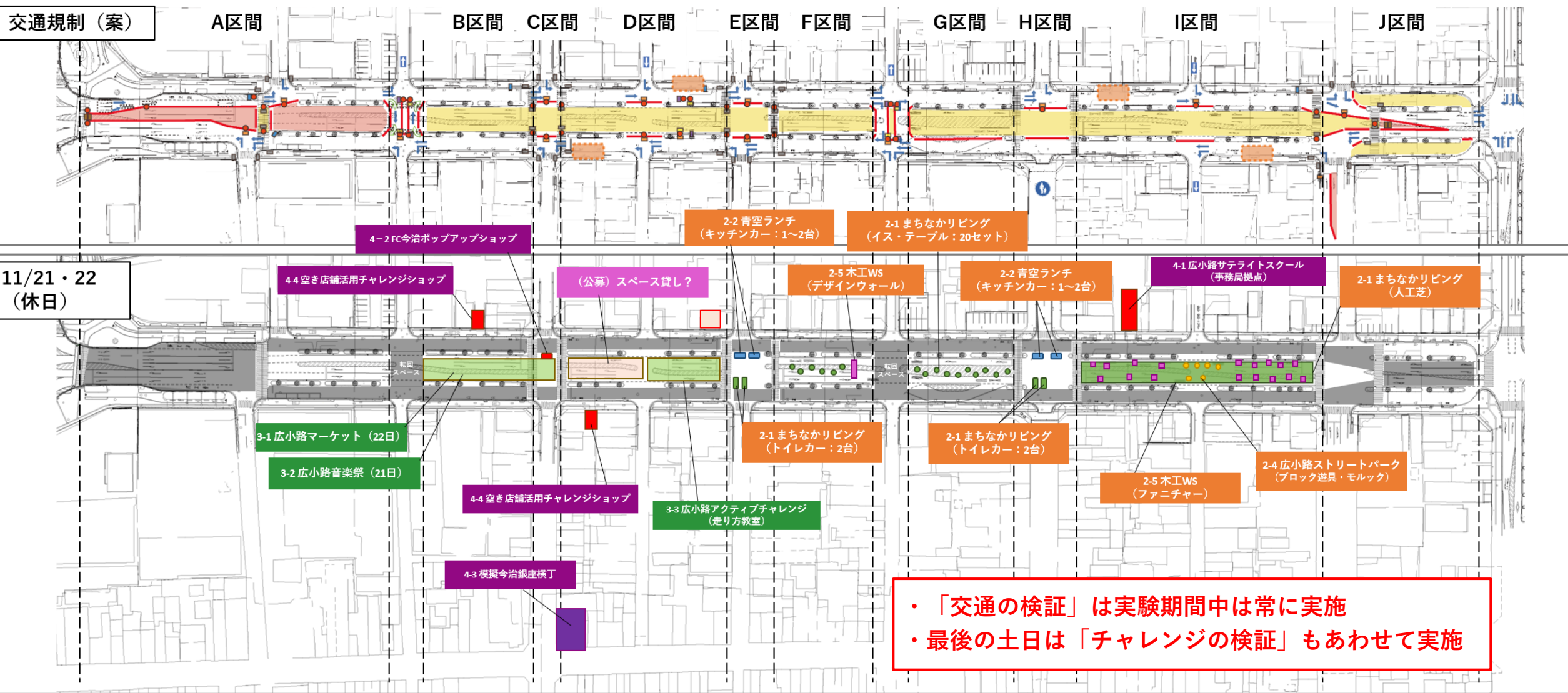
マルシェ
実施日

11/9 (月)	11/10 (火)	11/11 (水)	11/12 (木)	11/13 (金)	11/14 (土)	11/15 (日)	11/16 (月)	11/17 (火)	11/18 (水)	11/19 (木)	11/20 (金)	11/21 (土)	11/22 (日)
●設営													●撤収

交通規制 (案)

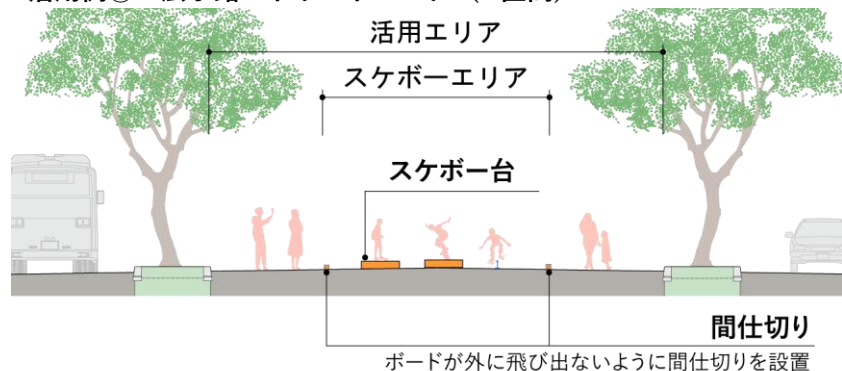
A区間 B区間 C区間 D区間 E区間 F区間 G区間 H区間 I区間 J区間

11/21・22
(休日)

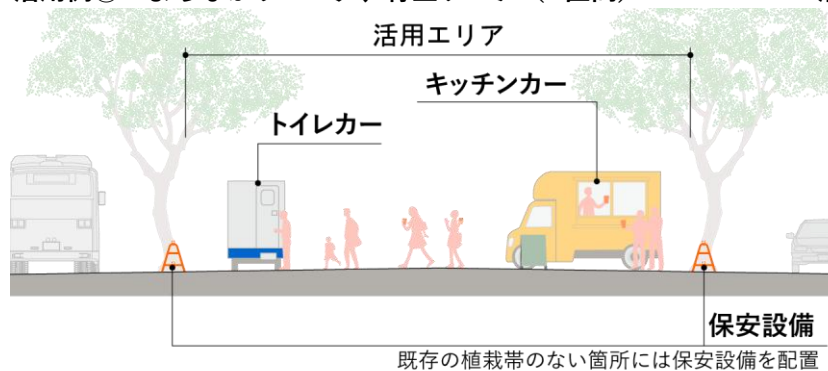


・「交通の検証」は実験期間中は常に実施
・最後の土日は「チャレンジの検証」もあわせて実施

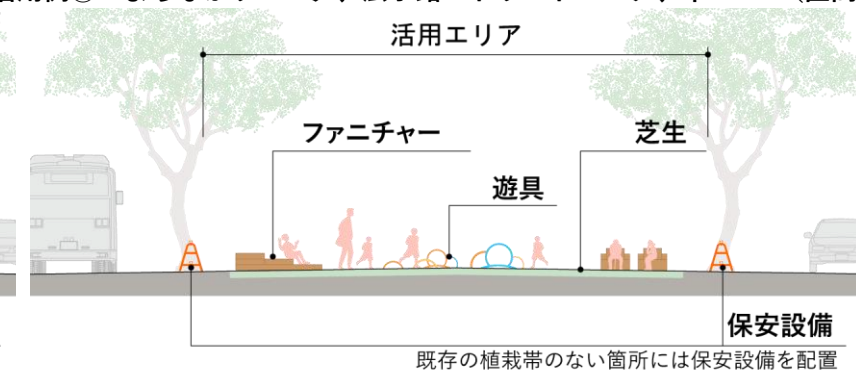
活用例①：広小路ストリートパーク（D区間）



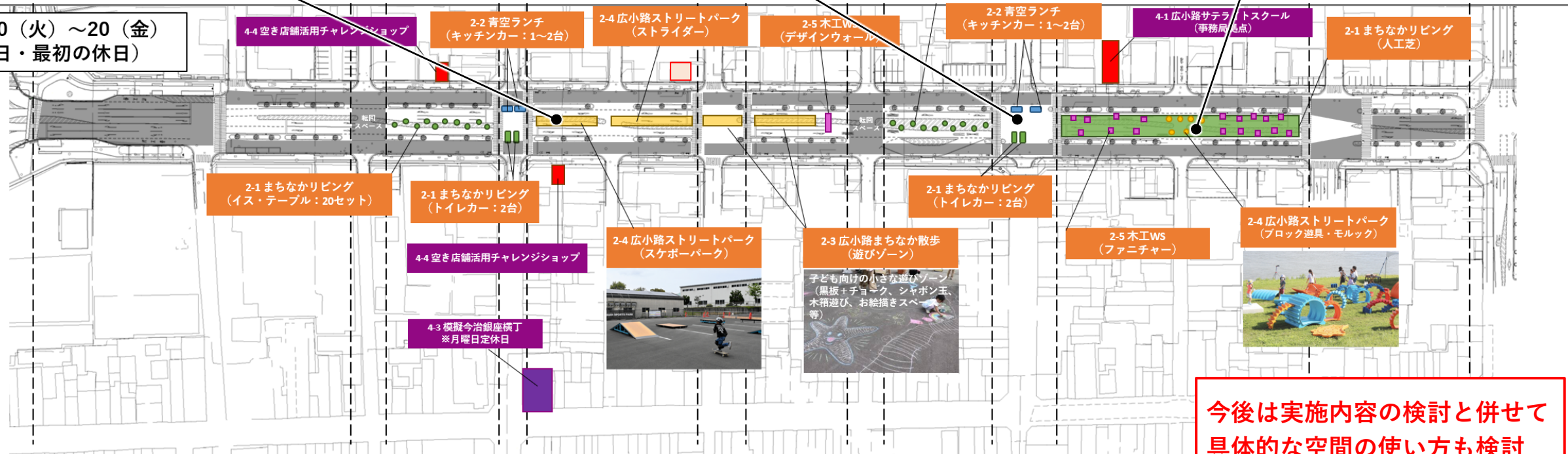
活用例②：まちなかりビング、青空ランチ（C区間）



活用例③：まちなかりビング、広小路ストリートパーク、木工WS（区間I）



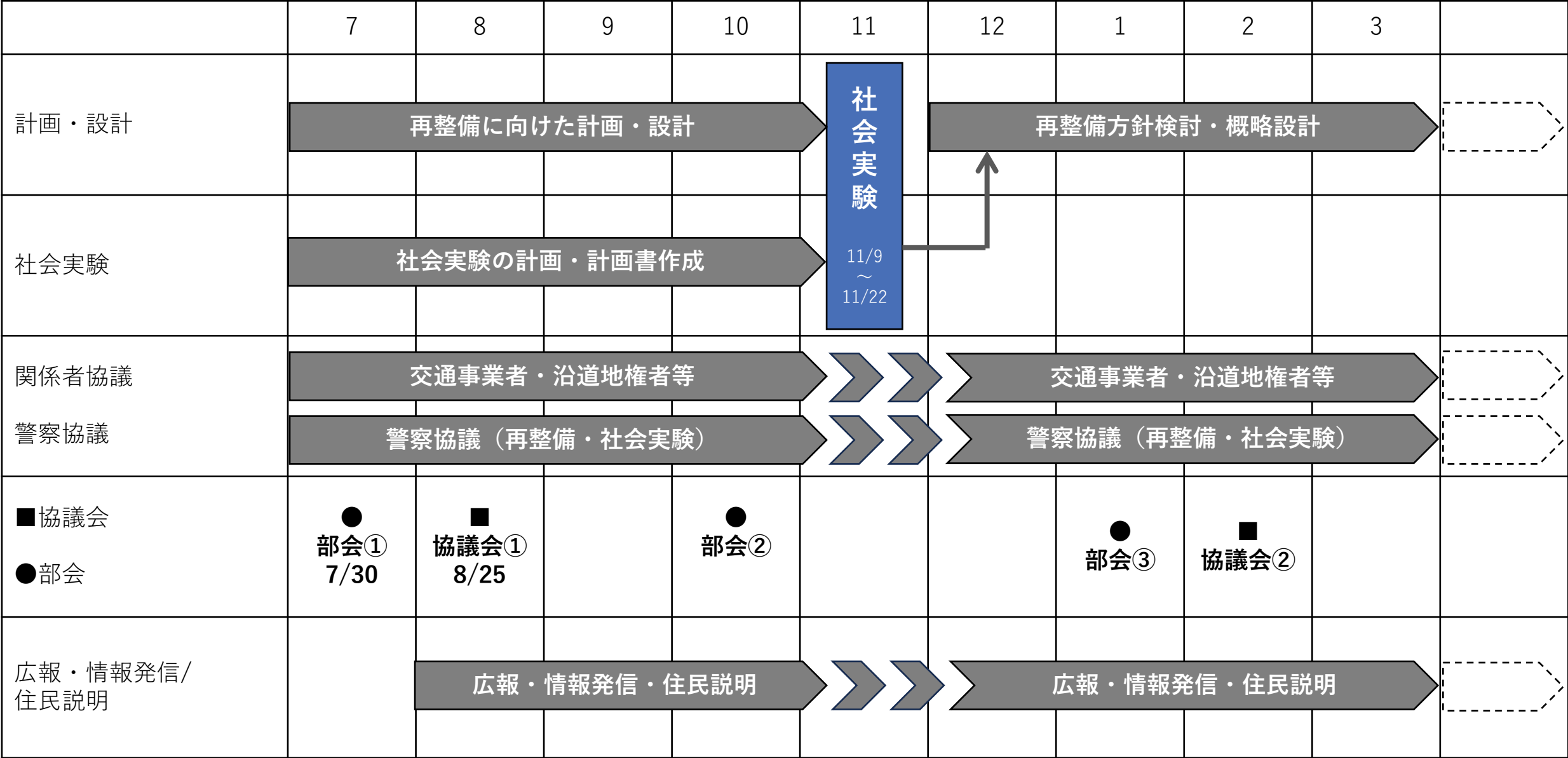
11/10（火）～20（金）
（平日・最初の休日）



- 社会実験を契機として広小路（今治港線）再整備に関わる情報を市民に広く周知することを目的として、現在の計画における考え方や将来イメージなどを示した概要資料を作成
- これまでの関係者協議等で頻出の質問に対してはQ&A形式で回答を整理することも検討し、再整備事業や社会実験に対する地域の認知度・関心を高めることを目指す（詳細は別添資料参照）

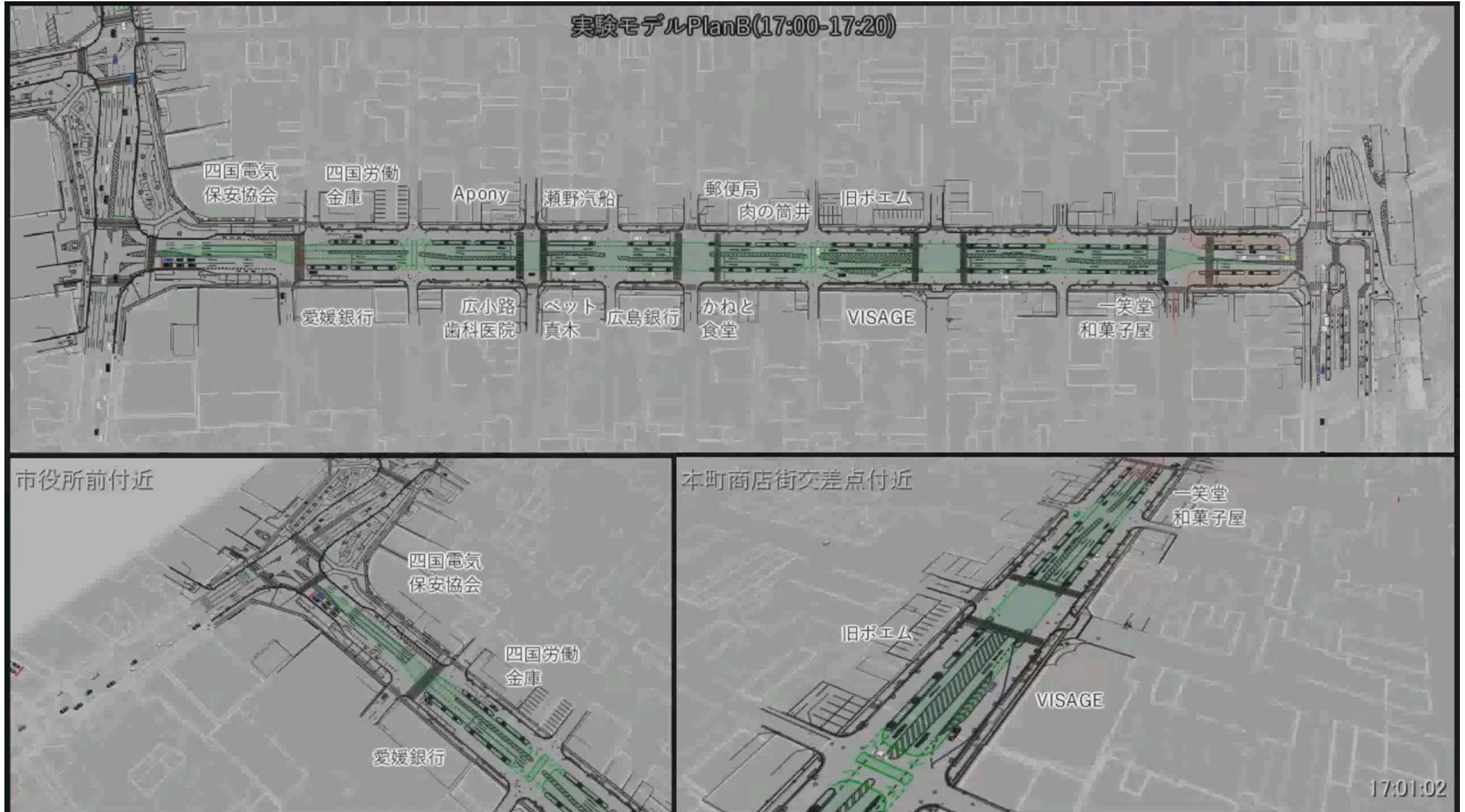
[illegible]

広小路（今治港線）再整備に関する今年度の進め方のイメージ



令和8年7月30日(木) 15:00~17:00 (今治市みなと交流センター「はーばりー」1階みなとホール)

項目	意見要旨
社会実験の 実施期間について	11/22（日）に「せとうちみなとマルシェ」が開催されるが、11/15（日）には一ばりー周辺で「アミタリ ア愛媛」が開催されるため、実験期間の日曜日は常にイベントが実施されている状況になる。 - 社会実験の期間について11/9-22で確定でよいのか。どのようにお知らせするか。 →11月の市の広報誌にて社会実験に関する情報を発信したい。
社会実験の 効果検証の 調査方法について	- 交通事業者への事前周知により、その後のヒアリング時にコメントをもらいやすいかと思うが、運送業者 については事前に案内は行う想定はあるか。 →社会実験の内容が確定し市民に公表するタイミングで、運送業者への周知を行うことを想定している。 不特定多数の市民の方々からのパブリックコメントのような形での意見収集の仕組みは検討しているか。 →社会実験を実際に体験した方からコメントをいただくことを想定している。
市民向け説明資料 再整備方針（案） について	資料の構成について、市民の皆さんに社会実験に関心を持ってもらったうえで、広小路の整備の内容につ いても伝えられるような構成を検討して欲しい。
沿道関係者との 協議	- 沿道ヒアリングについて、状況や反応を共有いただきたい。 →2月上旬から開始し、数件連絡のつかない所もあったが、店舗・住宅を含め約80件にヒアリングを実施 した。 - 賛否だけでなく多様な意見があり、今後もコミュニケーションを取っていく。



3. 意見交換①

4. 中心市街地における関連する検討・取組について

- シビックゾーンでの公共施設整備
- 中心市街地全体での都市基盤整備

(1) ネウボラ拠点施設
●事業者公募中
○R12年度供用開始（予定）

- (2) 県・市合同庁舎
●基本計画を作成中

- (3) M I C E 施設
●基本計画を作成中

- (4) 新設道路
 ●関係者と協議中
 ●測量設計等を実施中

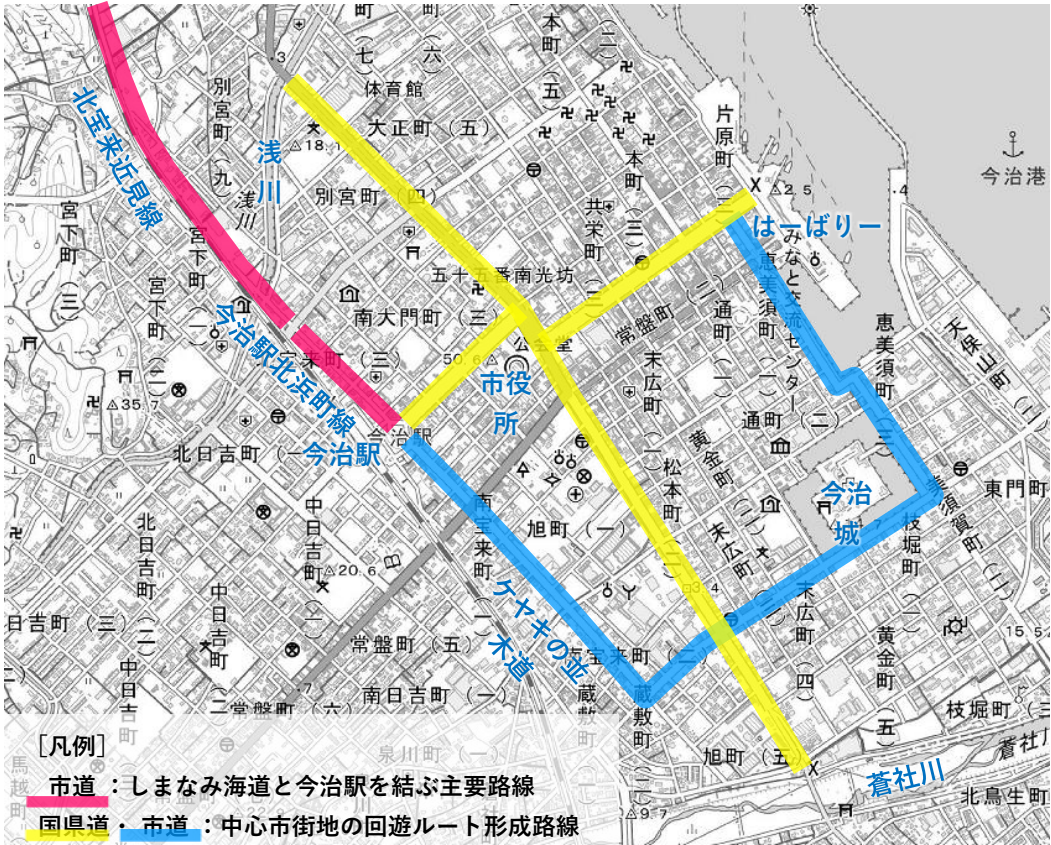
【凡例】

●現状・経過 ○今後の予定

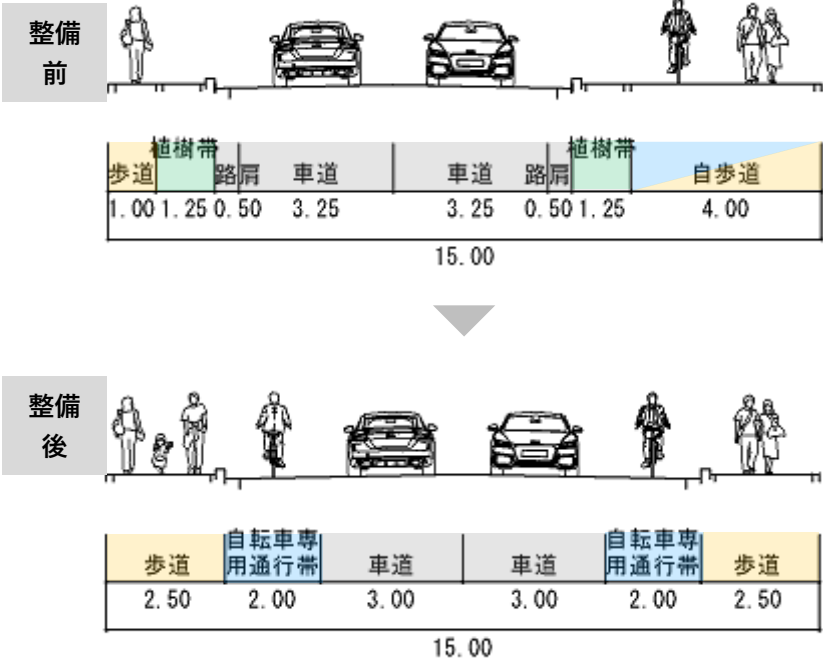


自転車通行環境整備

- 自転車ネットワーク計画に基づき、幅員再配分により安全で快適な自転車走行環境を整備する
- しまなみ海道と今治駅を結ぶ主要路線を整備し、Velo-city開催までの全線供用を目指す
- 今後は中心市街地における自転車利用の機運を高め、賑わい創出に繋げるため、自転車回遊ルートの形成に向けた整備を行う



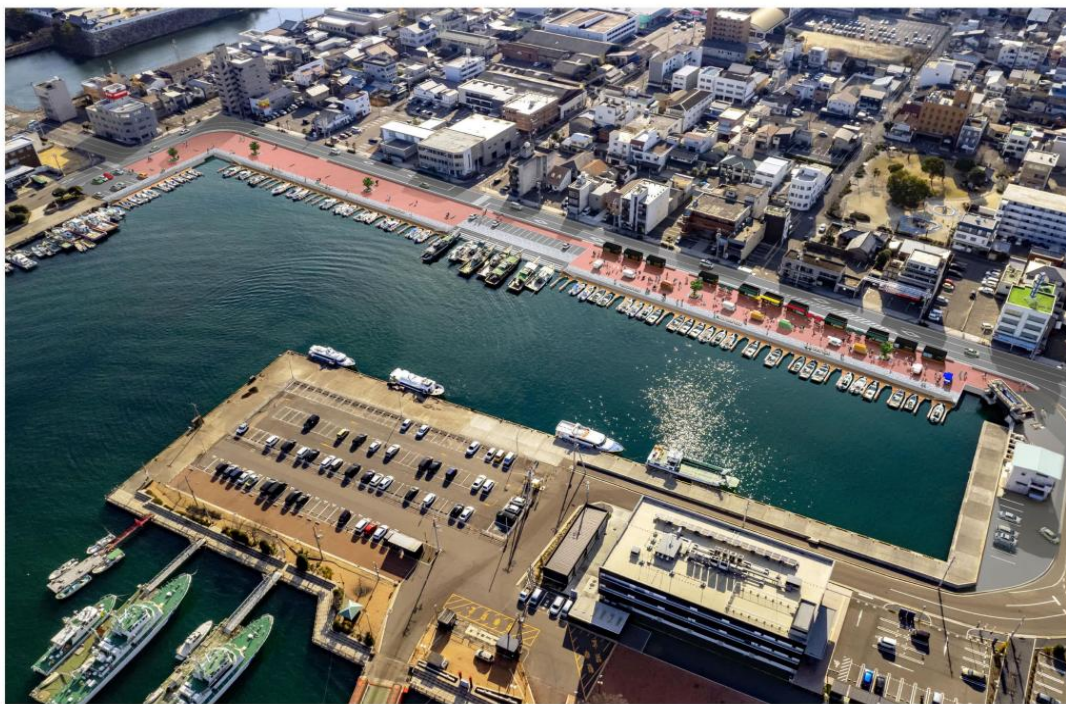
自転車ネットワーク計画路線 中心市街地整備位置図



北宝来近見線 標準断面図、現地写真
（上段：整備前、下段：整備後）

今治港港湾改修

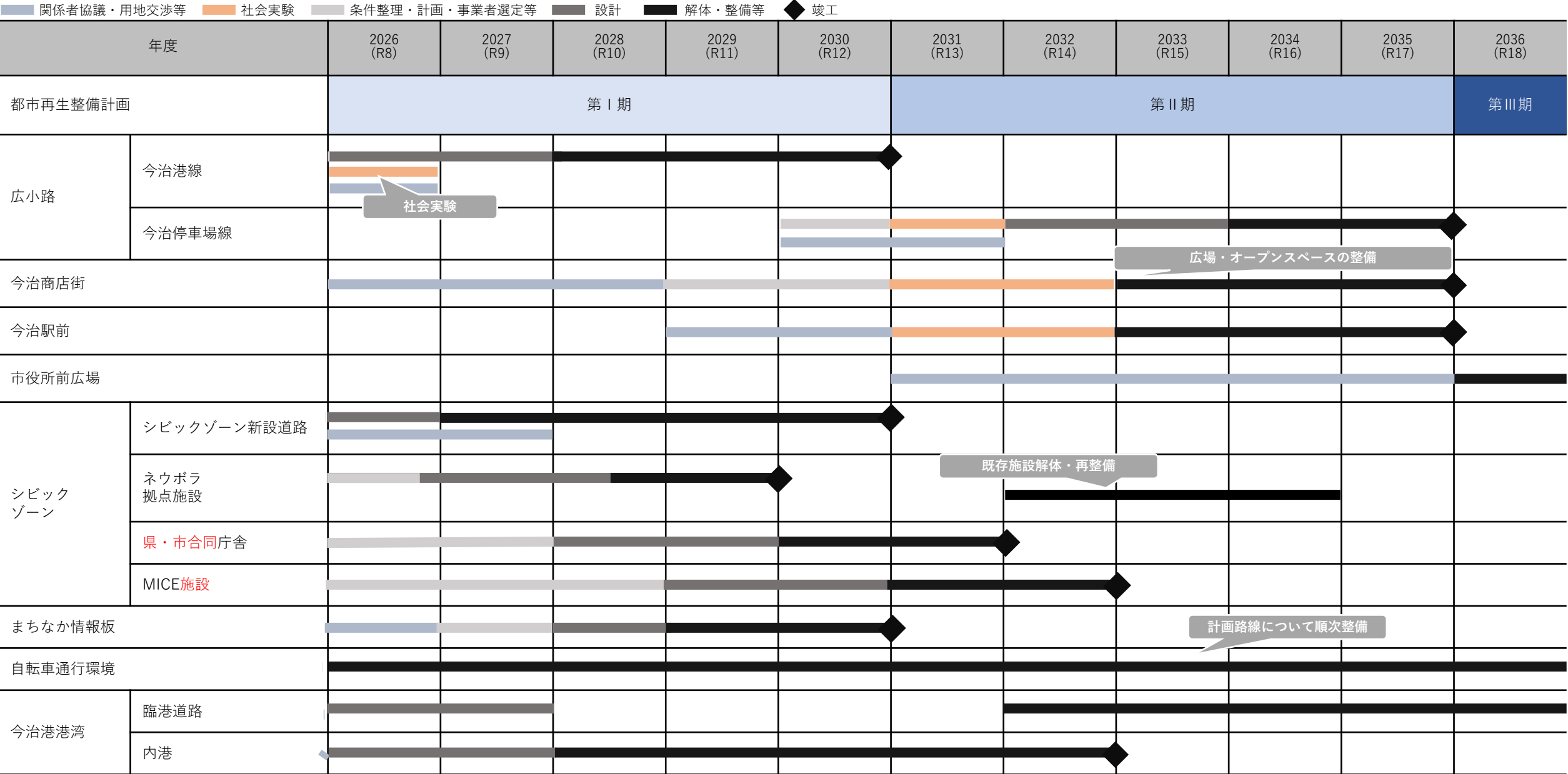
- 内港エリアの改築について、グランドデザインでの「ミズベ・ウォーク」の構想を踏まえ、防災減災や老朽化対策だけでなく、水辺を生かした歩行者空間・滞留空間としての整備を検討
- 港での「せとうちみなとマルシェ」の賑わいを日常や中心市街地に波及させることを目指す
- R8年3月に「港湾計画の簡易な変更」を実施
- R8年度は公有水面埋立に向けた環境調査等を進める



内港物揚場の将来イメージ（案）

想定される公共事業スケジュール（案）

40



※今後の検討により変更の可能性がある

令和8年7月30日(木) 15:00~17:00（今治市みなと交流センター「はーばりー」1階みなとホール）

項目	意見要旨
各検討・取組の連携について	- 各検討・取組がそれぞれ個別に進むのではなく、グランドデザインに基づき、情報を共有して連携を進める体制、議論する場が必要。 - 各施設の検討が進んだ段階では、公募時点とは周辺の状況も変化するかと思うが、施設の条件の変更がきかないことで、連携が難しくなるパターンも出うるかと思う。臨機応変に条件を調整できるようにすることで、より連携しやすいかと思う。 - 施設計画をする際には、使用が想定される事業者や団体にヒアリングを行い、必要な要素・機能を調査することで、実際に使いやすく、使用されやすい施設になるかと思う。 - 広小路（今治港線）の検討が前年度から進んでおり、全体として良い方向に進んでいるように思う。内港改修のイメージが提示されたことにより、広小路（今治港線）の検討を進めつつ、シビックゾーンや水辺空間と一体となって連動していることが視覚的に伝わり、期待が持てる。一体的な構想について、市民にも説明していくことが重要。
回遊について	- 文化財保存活用計画の策定が進められているが、その中では、文化財を観光と結びつけて活用することが重要とされている。広小路から今治城へとつながるルートを形成する考え方は非常に重要であり、寺町への回遊ルートについても検討する必要がある。 - 歴史的・文化的資源を広小路と結びつけながら回遊性を高めていく視点が重要。広小路を1本の背骨として、今治城や寺町、水辺へとネットワークが広がっていくまちづくりが望ましい。
コア会議について	社会実験を契機に、市民が主体になってまちづくりを考えられる体制づくりを考えられると良い。

第1回専門部会での主な意見（2）

令和8年7月30日(木) 15:00~17:00（今治市みなと交流センター「はーばりー」1階みなとホール）

項目	意見要旨
MICE施設	• MICE施設については、バリシップなど、2年に1回の大きなイベントがある一方、それ以外の期間にどのように施設を稼働させていくかが大きな課題。令和8年度に基本計画の策定をするが、グランドデザインの大きな枠組みの中で、MICE施設に求められる機能や役割を明確に整理し、その方向性を定めた上で整備・運用を進めていく必要がある。
今治港港湾改修について	• 内港の現況の広いスペースが活用されるようになると、マルシェの出店が広がり、今治城への回遊の動線もつなぐことができるかと思う。権利関係等、調整が必要な課題ではあるが、港町らしい魅力を高めるためには、できるだけ早く整備を進める必要があるかと思う。
駅前広場	• i.i.imabari!推進課と今治あきない商社が、2月14日から3月29日までの期間で、今治駅前で観光案内所を活用したBari-ショップ、キッチンカーの出店による賑わい創出の実証実験を行ったが、周辺店舗から好評を受け、JR側でも乗車率が一定向上したとの結果が出ている。駅前バリショップは引き続きスポット開店し、キッチンカーは9月以降にも実施することが決定した。
横丁構想	• 商店街の一角に、3m×4m程度の店舗が20店舗程度が集積するような横丁の構想を立てており、社会実験にて、半分程度に縮小した形で2週間程度の模擬横丁の実験実施を検討している。1店舗だけではなく、20店舗が一体となって、にぎわいを生み出す空間にできればと考えている。また、その中のお店が実際に商店街の中などに店舗を開くなどの、にぎわいがまちなかに広がるような周辺への波及効果もねらいとしてある。2年程度での整備を目標に検討中。

5. 意見交換②

6. 今後のスケジュール

(参考)

第2回公共空間再編専門部会

日時： 2026年10月下旬予定

場所： 今治市みなと交流センター「はーばりー」1階みなとホール

議題（案）：

- ・ 第1回専門部会での議論の振り返り
- ・ 広小路（今治港線）の社会実験について
- ・ 中心市街地における関連する検討・取組について
- ・ 中心市街地まちづくり市民会議2026について

第2回今治市都市再生協議会

日時： 2027年2月中旬予定

場所： 今治市役所本館2階 庁議室

議題（案）：

- ・ 第1回協議会の振り返り
- ・ 第1回～3回の専門部会での議論の報告
- ・ 広小路（今治港線）の再整備と社会実験の検討について
- ・ 中心市街地における関連する検討・取組について

「中心市街地まちづくり市民会議2026」のご案内

46

R6年度



各団体の発表や基調講演、市による中心市街地まちづくりの方針や将来ビジョンの説明

R7年度



グループワークやディスカッションによる参加型・対話型のプログラム

R8年度

1. グランドデザインでの計画内容や取り組みを発信し、地域住民・関係事業者等との議論の輪を広げる
2. 広小路（今治港線）をはじめ今後の公共空間再編整備・活用の機運醸成につなげる

企画例①

グランドデザイン展覧会

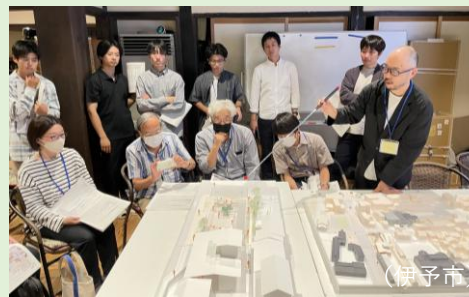
グランドデザインをはじめ中心市街地まちづくりでの取組をパネル等で展示



企画例②

デザインワークショップ

広小路（今治港線）の再整備後の利用・活用について、模型等を用いて意見交換



企画例③

車座ディスカッション

「まちなか」の未来と自身の関わりについて考えて、今後実現したいことやそのために必要なことについて語り合う



今年度のプログラム・開催時期については現在検討中
※社会実験に合わせて実施する可能性も